

(公社)東京都ペストコントロール協会 理事 葛西 晋平

11月1日(日)、JR中央線武蔵境駅前・境南ふれあい広場公園および隣接する武蔵野プレイス内で「むさしの環境フェスタ」が開催された。

澄み渡る秋晴れの中、武蔵野市内や多摩地区を中心に活動する各種団体(企業、NPO法人、大学、有志団体 等)が環境に関するテーマ「エネルギー、ごみ・資源、自然、食」で25ものブースを開設し、大勢来場者を迎えた。また、リサイクル・リユースの観点から、衣料品と小型の家電製品をフェスタ会場で回収するという取り組みも行われた。例年の通り我々東京都協会も出張害虫相談という事でブースを構え、来場者の害虫獣などの相談に対応した。

余談だが、今年はブース前面にアライグマのぬいぐるみを飾っていたのだが、「ハクビシンの近所でよく見かけるのよね～」とおっしゃり

ながら、相談に来る方が多かった。毎年感じることなのだが、むさしの環境フェスタの来場者は環境に対する関心が非常に高い。害虫獣等について口頭で説明されるだけでその同定を求めたり、施工金額の根拠、害虫の被害にあわないための予防法など、質問の内容が簡単なものからかなり高度な質問まで幅広く多岐に渡っている。それでも相談者は一概に駆除を望まれているわけではなく、習性を理解していないが為に「怖い」「厄介者」「不衛生」といったイメージを持っている虫獣も多く、「共生が出来るのであれば…」という意見も一部聞かれた。また相談者に配布するグッズの種類が豊富になった事もあり、例年より相談者数が増える要因になったようだ。

